



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第四十七号〕

小雪 十一月二十二日



旧慶光院客殿

慶光院上人という尼僧は、滞っていた伊勢神宮の式年遷宮を復興させた偉人として伊勢では知られていますが、その歴代の上人の住まいはほとんど知られていません。おはらい町の中ほど、御師の邸宅から移した立派な表門が、旧慶光院です。

立冬を過ぎた十一月上旬、旧慶光院客殿が初めて一般公開されました。開かれた表門へ、見物客がひっきりなしに入っていきます。いつもは静かな界隈いも、この時ばかりは人出で賑やかになりました。

表門を入ると檜皮葺の唐破風屋根の車寄せに迎えられます。今回は建物内部に入ることはできないため、南側の庭から客殿の内部を拝見しました。広縁を配し、十八畳、十五畳、十二畳が二部屋ずつ、計六部屋が続く広々とした座敷。L字框で画された上段の間、さらに上々段の間をもつ格式の高い構造です。狩野永徳の筆と伝わる障壁画は失っていますが、江戸時代、上人たちがいかに手厚く待遇されていたかが伺えます。

明治二年の廃仏毀釈で廃寺となった慶光院は、神宮司庁の庁舎として使われていたこともありました。その時は座敷に机を並べて執務にあたったといわれています。立派な客殿に面した南側の庭は、サザンカが蕾をつけ、八つ手の白い花やツワブキの黄色い花が初冬の風情を添えています。庭の草花は往時とは違うでしょうが、上人たちも小さな季節の草花を見つけるとは、愛でていたような親しみをもてる庭でした。三日間のみの公開でしたが、国の重要文化財に指定された旧慶光院客殿はこれから十一月下旬頃に公開される予定です。初冬の楽しみとなりそうです。

文 千種清美

